

◆新宿御苑

「昭和 100 年」関連施策実地レポート

このコーナーでは、内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室の室員が、各地で開催されている関連施策を訪問し、感想を含め皆様へご紹介します。

今回の訪問先は、新宿御苑です。

新宿御苑開園 120 周年記念&昭和 100 年記念 特別展

新宿御苑の歴史は、徳川家の家臣・内藤氏の江戸屋敷の一部がそのルーツと言われており、明治に入り、農事試験場を経て、明治 39 年（1906 年）に皇室の庭園となりました。先の大戦の空襲で建物の大部分を焼失しましたが、戦後に修復され、昭和 24 年（1949 年）に国民公園として一般に公開されました。現在では、四季折々の植物が鑑賞できる都会のオアシスとして、外国人観光客も含めて年間約 300 万人が訪れています。

新宿御苑では、令和 8 年（2026 年）が新宿御苑開園 120 周年に当たることから、「新宿御苑開園 120 周年記念&昭和 100 年記念特別展」と題して、新宿御苑と昭和天皇のゆかりについて紹介する特別展を開催しています。

昭和天皇にとって新宿御苑は、昭和天皇が皇太子時代を過ごされた時期から崩御後の大喪の礼等に至るまで、きわめてゆかりの深い場所です。

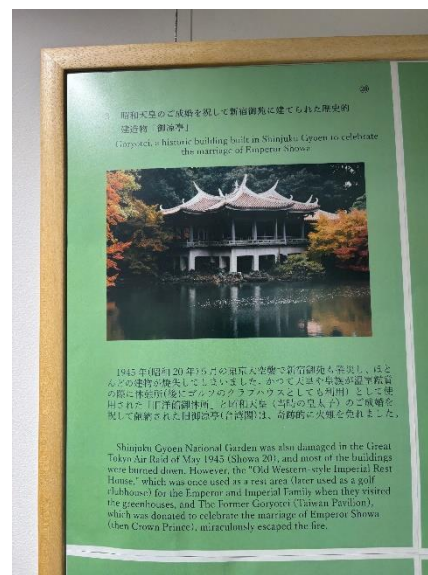
今回の展示では、新宿御苑インフォメーションセンター・アートギャラリーにおいて、新宿御苑を訪れる方々に、新宿御苑の紹介とともに、昭和天皇が楽しまれたゴルフと当時新宿御苑にあったゴルフコース、昭和天皇が愛された新宿御苑のシンボルツリーの一つである「メタセコイア（アケボノスギ）」、さらには昭和天皇のご成婚を祝して建てられた「旧御涼亭」について紹介するパネルの展示を通じて、昭和天皇と新宿御苑との関わりを伝えています。



◆新宿御苑



パネル展示で紹介されている旧御涼亭については、大正13年（1924年）の昭和天皇のご成婚を記念し、台湾在住邦人の有志が造営、献上した建物で、昭和2年（1927年）10月に完成しています。別名「台湾閣」と呼ばれており、清朝中期以降の台湾で用いられた閩南建築様式の特徴を取り入れた建物です。新宿御苑は、先の大戦の空襲により建物の大部分を焼失しましたが、この旧御涼亭は旧洋館御休所とともに奇跡的に火難を免れて現在にその姿を残しており、当時と同じ日本庭園の眺望が楽しめる場所として一般に公開されています。



◆新宿御苑

また、新宿御苑ミュージアム及び旧洋館御休所も見せていただきました。

新宿御苑ミュージアムは、令和4年（2022年）に建設され、新宿御苑のこれまでの歴史や文化を音声や映像で紹介するほか、新宿御苑内で見られる四季折々の植物の紹介、さらには新宿御苑で栽培されている、皇室ゆかりの伝統を受け継ぐ菊花壇の紹介などを行っています。



旧洋館御休所は、天皇や皇族が新宿御苑（当時は新宿植物御苑）内の温室で植物を鑑賞する際の休憩所として明治29年（1896年）に創建されました。大正後半からは主にテニスやゴルフなどのスポーツ後のクラブハウスとして使用されていました。旧洋館御休所は旧御涼亭とともに先の大戦の火難を免れ、戦後は長く管理事務所として使われてきましたが、歴史的・文化的価値の高い建物として保存改修工事が行われ、平成13年（2001年）に国から重要文化財に指定されています。現在は、一般公開されています。



◆新宿御苑

新宿御苑は、3つの庭園が巧みにデザインされて四季折々の植物が鑑賞でき、とりわけ、春は多くの種類の桜を長く楽しめる桜の名所として、秋は皇室伝統の優美な菊花壇展が行われる庭園として、多くの方に愛されています。昭和100年という節目に当たり、かつては皇室の庭園であった新宿御苑と皇室との関わりを再認識する大変良い機会となりました。

本レポートの掲載時において、特別展は6月7日（日）で終了していますが、新宿御苑ミュージアムや旧御涼亭、旧洋館御休所は一般に公開されておりますので、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

会期：令和8年4月28日（火）～令和8年6月7日（日）

主催：環境省新宿御苑管理事務所

住所：東京都新宿区内藤町11